

ご挨拶



就任のご挨拶

吉永 信治

原爆放射線医科学研究所 放射線影響評価研究部門
計量生物研究分野 教授

この度、広島大学原爆放射線医科学研究所 計量生物研究分野の教授を拝命し、平成30年9月1日付けで着任いたしました吉永信治と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は高知県高知市で生まれ、同市内の土佐高校を卒業後、東京大学理科2類に入学し、同大学医学部保健学科および同大学大学院医学系研究科を経て、平成6年4月に千葉市の放射線医学総合研究所で研究者生活をスタートいたしました。その後、途中1年間の米国国立がん研究所への留学時期を含め、24年以上にわたり放射線被ばくによる健康影響に関わる疫学研究やリスク評価研究などに携わってまいりました。

放射線障害の治療や予防にかかわる研究のメッカと言える広島に移り、伝統ある広島大学の一員として仕事ができることとなったのは、当該分野の研究者の私にとって大変嬉しく、身の引き締まる思いでございます。このような機会を与えてくださった関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

広島大学では、原爆放射線医科学研究所が蓄積してきた原爆被爆者の資料等に基づいた放射線の健康影響に関する疫学的研究、および関連する統計解析手法の開発と適用に関する研究に携わるとともに、同分野の専門家育成のための教育に精励する所存でございます。新たな環境でまだまだ不慣れなことが多いのですが、広島大学のさらなる発展に貢献出来るよう精一杯頑張りますので、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

座右の銘

心配するな、なんとかなる

末田泰二郎

医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 医学講座 外科学 教授



座右の銘を一言書くようにご依頼がありました。私に座右の銘を語る資格があるのか疑問でしたが、敬愛する先生からのご依頼でしたのでお受けしました。座右の銘も年と共に変化します。年を取ってお坊さんの言葉を目にする機会が増えましたが、啓発的な名言より自由奔放に生きた坊さんの言葉に惹かれます。良寛しかり一休しかりです。タイトルは一休宗純の遺文と言われていますが伝記作家が後に創作したとも伝えられます。一休は子供漫画では頓智の一休さんで知られる利発な小坊主でした。後小松天皇の御落胤という説もあります。6歳で臨済宗に入門、受戒しました。少年時よりすぐれた詩才を発揮しましたが師匠の謙翁宗為の死に際し自殺未遂しています。26歳で大悟して臨済宗の印可状を授与されましたが辞退して印可状を火中に投じました。以後は詩、狂歌、書画、風狂の生活を送っています。飲酒、肉食、女犯を行い盲目の女性を深く愛したそうです。当時の仏教界の権威や形骸化を批判、風刺した多くの狂歌を残しています。そんな一休に当時の仏教界や貴族層の風当たりは強かったと思いますが、遺文のごとく「心配するな、なんとかなる」と生きてきたのかと想像します。私も手術の恐怖（心臓手術は失敗すると患者さんが死にます）、権威の圧力に屈せず心臓血管外科医として人生を送ってきましたが内心は不安で一杯でした。この言葉は自分自身の人生への励ましの言葉かも知れません。